

四国山地におけるツキノワグマ生息範囲調査の結果について
～「はっこプロジェクト2017」～

剣山山系及びその周辺の地域のみが生息する四国のツキノワグマは、1996年時点で50頭未満と推定されており(「レッドデータブック2014」(環境省)より)、絶滅のおそれのある地域個体群とされています。

中国四国地方環境事務所、四国森林管理局及び(認特)四国自然史科学研究センターでは、ツキノワグマの生息状況を把握するための調査「はっこプロジェクト」を、平成26年度から連携して実施しています。(中国四国地方環境事務所は平成27年度から参画。)

平成29年度の調査結果は下記のとおりでしたので、お知らせします。

記

1 調査概要

調査期間：平成29年6月から平成29年12月まで
調査方法：無人撮影装置(センサーカメラ)による調査
23箇所66地点に無人撮影装置を設置

2 調査結果(別添1参照)

今年度の「はっこプロジェクト」において確認(撮影)されたツキノワグマの個体は、以下のとおりです((1)～(7)はそれぞれ別の場所です。)

なお、同じセンサーカメラで複数回撮影された場合、すべて同一の個体なのか、異なる個体も含まれているのかは、分からない場合があります。

- (1) 高知県安芸市の民有林内のセンサーカメラ(四国自然史科学研究センター)で、ツキノワグマが1回撮影され、1頭が確認されました。
- (2) 高知県香美市の民有林内のセンサーカメラ(中国四国地方環境事務所)で、ツキノワグマが5回撮影され、少なくとも2頭が確認されました。
- (3) 徳島県那賀町の民有林内のセンサーカメラ(中国四国地方環境事務所)で、ツキノワグマが4回撮影され、少なくとも3頭が確認されました。
- (4) 徳島県那賀町の民有林内のセンサーカメラ(中国四国地方環境事務所)で、ツキノワグマが2回撮影され、少なくとも1頭が確認されました。

(5) 徳島県那賀町の民有林内のセンサーカメラ（中国四国地方環境事務所）で、ツキノワグマが25回撮影され、少なくとも6頭（うち2頭は親子グマ）が確認されました。

(6) 徳島県那賀町の民有林内のセンサーカメラ（中国四国地方環境事務所）で、ツキノワグマが3回撮影され、少なくとも1頭が確認されました。

「はしっこプロジェクト」として設置したセンサーカメラ以外にも、今年度は、以下のツキノワグマが確認されました。

(7) 徳島県美馬市の民有林内（国有林との境界近く）において、日本クマネットワークが設置したセンサーカメラで、ツキノワグマが2回撮影され、少なくとも2頭が確認されました。

※詳しくは、日本クマネットワークのプレスリリースを参照ください

<http://www.japanbear.org/other/other-2434.html>

今年度ははしっこプロジェクト及び日本クマネットワークが設置したセンサーカメラで、少なくとも10頭のツキノワグマが確認されました。1箇所親子グマが確認されたことは、多少なりとも世代交代が起きていることを意味しています。

3 今後の予定

今回の調査結果を踏まえて、平成30年度も調査を継続する予定です。

～ お問い合わせ先 ～

中国四国地方環境事務所

野生生物課 阿部 TEL：086-223-1561

高松事務所 植江田 TEL：087-811-7240

四国森林管理局

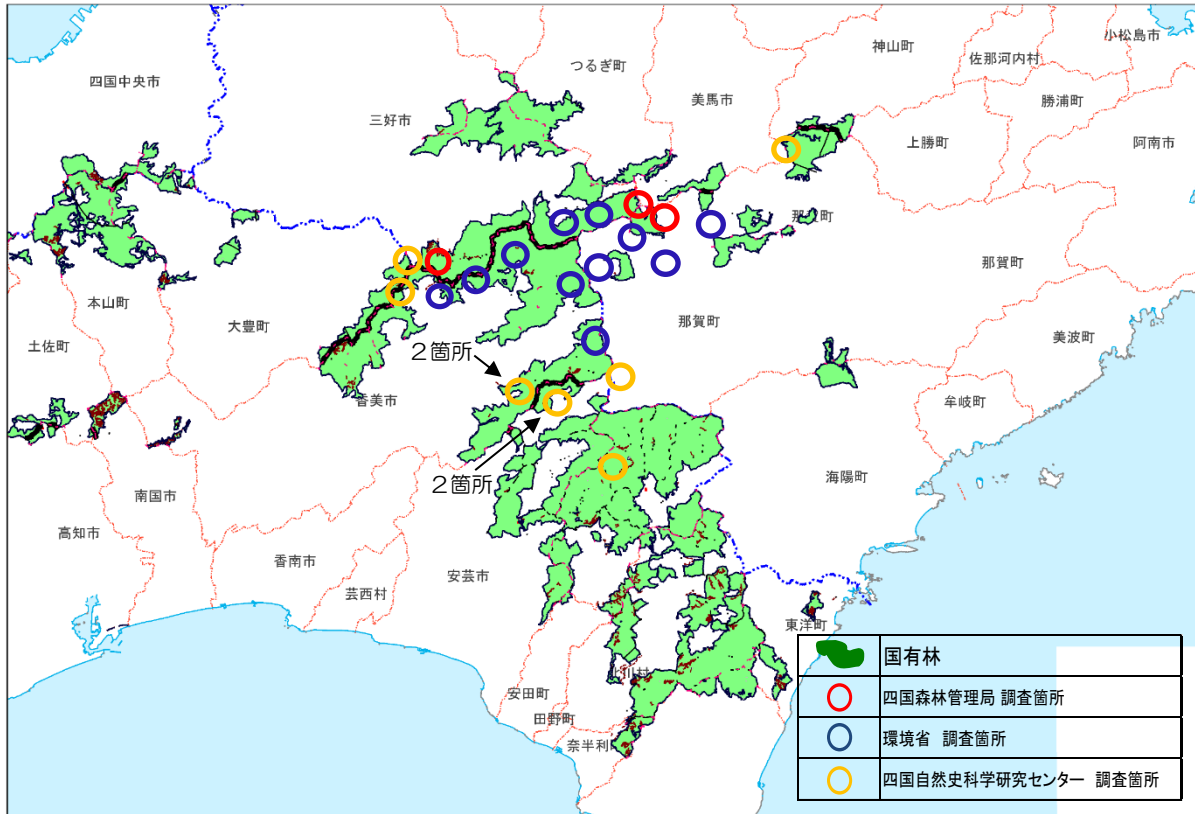
計画課 松本、富田、横山 TEL：088-821-2100

四国自然史科学研究センター

谷地森、山田 TEL：0889-40-0840

○ 調査箇所

剣山系周辺（高知県と徳島県）の国有林及び民有林



○ 今回の調査で撮影された動物

名称	撮影箇所	名称	撮影箇所
ツキノワグマ	6	ニホンザル	15
アナグマ	17	ニホンジカ	22
イノシシ	19	ニホンノウサギ	4
キツネ	7	ニホンモモンガ	3
タヌキ	20	ニホンリス	13
テン	23	ハクビシン	16
ニホンカモシカ	13	ムササビ	1
ネズミ科の一種	8	ヤマネ	1
イタチ属の一種	4	コウモリ目の一種	6

※ 箇所数は、全調査箇所（23箇所）のうち、対象となる動物が1回以上撮影された調査箇所の数。